「良い歯の会」機関紙

いのち

医（い）・農（の）・智（ち）

人の心の中の中
思いを伝える　難しさ
その難しさゆえ
人はみな
心を傷つけられながら
思いを温め　繋ぐため
どこから来たのかわからずに
どこへ行くのかさえも
　わからずに
それでも
今あるいのちを
生きている

第 26 号
発行
丸橋歯科「良い歯の会」
発行所　群馬県高崎市栄町21-1
TEL　027-323-9524
FAX　027-322-3139
http://www.maruhashi.com/
E-mail:maruhashi.s@cb.wakwak.com

世界を旅して見えた 人類紛争前線の正体

丸橋　賢

私は明確な目的をもって世界を旅している。これまでに人類がしてきたこと、現在していること、これから先、人類が歩むであろう道、それらを自分の目で見て考えたいというのが目的である。したがって訪ねた国は、米、英、中国、ロシア、ヨーロッパ諸国等の主要国の他、東西対立或いは南北対立の前線となっているキューバ、北朝鮮、韓国、ベトナム、イラン、シリア、レバノン、ヨルダンなど、焦臭い国々にも重点を置いてきた。歯科的な研究目的から、食文化と健康の関係についても同時に調べてきた。この旅から確認できたことは多いが、その基本は、日本に伝えられる情報は大本営発表にも似た、操作されたものであること、カップラーメンとハンバーガーに代表される日米食が入り込んだ地域の人々に身心の荒廃が拡がっている、などの事実である。ヨーロッパにはずっと正確に伝えられる情報も日本にはアメリカ製（ユダヤ資本のメディアによって操作された内容）となって伝えられている。その他多くの事実を自分の目で確かめてきたが、この四月、南ア共和国からボツワナ、ジンバブエ、ザンビアに入り、私には決定的なものが見えてきた。今まで世界を歩き、多くの点を見てきたものが一瞬に線となり、つながって見えてきたのである。

点在する世界の巨大スラム

世界には信じられないほど巨大なスラムが点在する。シリアやレバノンにはイスラエルに家を追われた難民スラムがある。アメリカにもセントラルパーク近くのハーレムのような危険極まりない大きなスラムがある。ワシントンDCは七〇パーセント以上の住民が黒人となり、中心部から白人が逃げ出してしまった。南米に渡ればリオデジャネイロなどに山の頂上まで埋め尽す巨大なスラムがある。

リオデジャネイロの巨大なスラム。山の頂上まで急な斜面を埋め尽くしている。人口は不明。

この辺りのスラムには水道も電気もなく、電柱から勝手に電線を引き、公然と電気を盗む無法地帯となっている。ペレなどが競技をした有名なサッカー場からは、山の頂上に達する大きなスラムが目前に見える。ここの住民は、かつて奴隷として連れて来られた黒人の子孫である。カンボジアなど東南アジアにも貧民街はあるが、アメリカやブラジル、南アなどのスラムは、かつて白人が奴隷として連行した黒人の子孫たちである点で性格を異にしている。

日本では信じられない規模のスラムが世界には点在する。南アのソエトは人口八百万以上と言われるが、戸籍がないので不明だ。

スラムの周辺は治安が悪く、危険であると言われているが、それは事実だ。仕事がないので奪うことが仕事なのだ。これらの中で最も危険なのは銃で命まで奪うアメリカだろう。ブラジルや南アでは、物は奪うが、抵抗しなければ生命までは奪わない。

危険と伝えられる心良き人びと

巨大な人口を抱える世界のスラムを見れば、日本人の多くは驚くに違いない。反対に、危険と伝えられている国や地域の中にも、本当は限りなく心良き人びとが存在する事実に出会ったら、これもまた驚くだろう。そのよい例が中東である。イラン、シリア、レバノン、ヨルダンなどを訪れ、人びとと交流する機会があれば、日本人は心洗われ、人間は本当は信じてもよい存在なのだという忘れていた事実を思い起こすに違いない。胸が熱くなってくるだろう。人混みなどでもスリに会うこともなく、商品やつり銭をごま化されることもない。つり銭がなければ向うがおまけしてくれる。食べろと言って何でも分けてくれるし、何かを頼めば自分の仕事を放り出して手伝ってくれる。中東の人びとは日本人に好感を持っていて心許して付き合ってくれる。特にイラン人は日本人が大好きで、どこに行っても一緒に写真を撮ってくれと言ってきて、歩けなくなる事もある。家にも招き、歓待してくれる。

キューバの人びとも同様で、幾つもの人種が全く差別なく、仲良くしていて、黒人の人柄も明るく親切で最高だ。調査や見学を依頼しても無限に親切で、無警戒に、見知らぬ外人を家に入れてくれる。キューバに行って、私は本当に恥かしくなった。日本では人を信用してはいけない。子供に、知らない人について行くな、家に入れるなと教える。本当は人間を信じてよかったのだということを、彼らは思い出させてくれる。

では、スラムの黒人のように、彼らの心を悪くした犯人は誰なのか。

南アで見たホワイト、ブラック、カラード

南アのスラム、ソエトに入った。人口八百万以上と言われるが不明で、三十パーセント以上の人がエイズだと言われる。仕事がないのが当り前で、小さな小屋ばかりだがここはマンデラ氏等の努力で少し整備が進んでいて、スラムとしては程度が良い方だ。他のスラムは日本の家畜小屋よりひどく、狭い。無法地帯化するのは当然と思える。そのヨハネスブルクの中心に、新宿副都心のような高層ビル群が聳えている。かつて白人のビジネスセンターであったが、今は白人が入れば必ず襲われるので近寄れず、黒人の勢力下となっている。白人たちは郊外に逃れ、高圧電流を流したフェンスに囲まれた中でビジネスをしている。個人の家も厳重なフェンスをめぐらし、電流を流している。そうしなければ襲われるのは当り前なのだ。ワシントンDCとよく似た状況だ。

ヨハネスブルクのビル群。かつては白人のビジネスセンターだった。

アパルトヘイトは法的には終ったが、差別はほとんど変わらず、白人と黒人の生活空間ははっきりと分けられている。ここではホワイトが人と認められ、人間として扱われるが、ブラックはソエトのような所にしか住めず、仕事もなく、ペット以下の生活である。少数だが、ホワイトとブラックの混血がいて、扱いはブラックと同じである。この混血をホワイトがどう呼んでいるか、それを知れば白人の本音を知ることができる。カラード、それが、白人が行う有色人種の区分である。

人間を壊し、森と動物を殺した者

今回、スタークフォンテンも訪れた。初期の人類の骨が発掘された所だ。人類はアフリカ東南部に生れ、北上した。そしてコーカサス地方から西に拡散したのがコーカソイドと言われる白人で、一神教を作った。東に拡散したのが有色人種で多神教を作った。東南アジア、日本、極東と拡散し、ベーリング海を渡り、北米、南米へと展開したのである。だからアジア人、北米のインディアン、南米のインディオ等の民話や宗教は共通点が多く、性格もおとなしい。

西に展開した白人は、その後全世界を植民地化し、同時に原住民を殺したり奴隷化していった。その奴隷が放り出され、現在スラムとして残っている構図が見える。

森に住む黒人は底抜けに明るく、人柄がよいが、スラム化された黒人は暴徒化している。それを見て多くの人が黒人は危険と言うが、それは間違いだ。黒人の心を壊したのは白人たちなのだ。同様に白人が侵略した線まで、森と動物が殺されたのだ。昔はライオン、キリンなどの動物が沢山いたアフリカ大陸の南端、ケープポイントに立った時、そこから南アメリカ大陸の南端にまでつながる、ホワイトとブラックのせめぎ合いの前線が、私にはつながって見えたのだった。その見えない線上に、スラムは点在している。

同時にもう一つのことを私は悟った。この前線には常に紛争が絶えることなく、たとえ紛争がベトナムや朝鮮の場合でも、背後には必ずホワイトの思惑が存在する。そしてこの前線に沿って、原爆、枯葉剤、白リン弾、クラスター爆弾など、非人道的な兵器が用いられるのだ。それらの兵器がホワイト側に落とされることはない。多くの紛争の原点には一神教と多神教の宗教対立があり、他教を認めない一神教が否定する多神教やカラード側に、非人道的兵器が用いられると見れば本質がよくわかると思う。

人類紛争前線、ここから絶え間ない争いと悲劇が生れてきたし、今後も人類が負わされる重いテーマである、という点を直視してほしい。

丸橋全人歯科の既刊本

退化する若者たち
歯が予言する日本人の崩壊
PHP新書
丸橋　賢 著
756円

歯で守る健康家族
歯育・食育・治療の決め手
現代書館
丸橋　賢 著
1,575円

ほんとうは治る防げる　歯槽膿漏
永遠のロングセラー
丸橋　賢 著
農文協
1,260円

新しい歯周病の治し方
全身を治す視点で歯周病を克服
丸橋　賢 著
農文協
1,470円

歯　良い治療 悪い治療　の見分け方
歯科治療の問題点を解明
丸橋　賢 著
農文協
1,530円

よくわかる顎偏位症の治療と予防
咬み合わせ治療で頭痛・肩こりが解決
丸橋　賢 著
農文協
1,300円

インプラントで安心
丸橋賢ほかインプラント治療班著
入れ歯の悩みからさようなら
農文協
1,600円

インプラントの実際
辻本　仁志 著
患者さんの手記と、豊富な治療例でわかりやすく解説
農文協
1,400円

全人歯科革命
患者さんの体験記で綴った
実践編
1,575円

全人的治癒への道
丸橋全人医学の全貌を説く
理論編
1,890円

癒しの思想
いのちを見つめる視座の原点
感性編
1,995円

丸橋　賢 著・春秋社

新刊案内

1,680円　紀伊國屋書店

全人治療で治った 患者さんからの声

インプラントで劇的な改善

東京都　鎌倉　良太（自営業・57歳）

怠惰な私の性格からか中途半端な虫歯治療と歯槽膿漏を放置したためか、さらに一回に4本も抜歯するような治療によって、部分入れ歯の装着を余儀なくされた。一向に解決しない違和感、残った歯もぐらつき、下は総入歯となった。やがて上の残った歯もあっけなく抜け落ちた。

完全に自分の歯が消滅したのは40歳も半ばを過ぎた頃であった。その後は何軒もの歯科医院、大学病院への通院通算で不明瞭となったまさえ発音まで不明瞭となった。「豆腐、麺類等以外はほとんど咀嚼できず丸飲みする毎日、それは口の中の感覚として入れ歯を食べているのか食べ物を食べているのか分からないような情けない食生活であった。飲酒量も増え、仕事にも健康にも悪影響を及ぼした。

又、平気で食事中に入前で総入れ歯を外したり、その事で他人の誘りを人伝えに聞いたり、同級生の歯科医師からもお前みたいになったら人生半分は失ったも同然、死んだ方がましまで言われる始末であった。今考えると半分人生を放棄し自暴自棄にもなっていた。

インプラント治療法は聞いてはいたが丸橋全人歯科の下6本、上10本のインプラント手術を引き受けてくれる医療機関は恐らく私の情報には皆無であった。そんな折、私の信頼する農業関係出版社の農文協刊、丸橋全人歯科の辻本先生の著書「インプラントの実際」に出会った。

丸橋先生の最初のご指導の折、インプラント治療すればあなたは劇的に改善されますよ。大丈夫任せなさいとのお話は忘れられません。全幅の信頼を寄せ一切をお任せすることを決心した。

辻本先生にお世話になってから約2年半が過ぎ、治療も終盤を迎えている。増骨手術からはじまり、数度のインプラントの植立手術も無事に終了、仮歯の装着、下は本歯がかっしりと入って咬み合わせも劇的に改善された。まだ上は仮歯ながら何でも咀嚼き、旬の美味しさを味わう食の喜びを取戻すことができた。

一番に感謝するのは今回のインプラント治療に踏切る決断を促してくれた妻である。彼女の献身的な経済的バックアップと強力な説得が無ければ軟弱な私は今後の人生すら投げ出していたかも知れない。

私は今後、家族の事、仕事の事、将来の生活の事に今一度積極的に挑戦する意欲が湧き、生きる喜びを取り戻した気分である。

ここには丸橋先生、辻本先生を始めスタッフの皆さんに感謝する次第です。

当院で治療をする前のお口の中。顎がやせて義歯が安定せず、しゃべりにくい、食べ物が咬めないと訴えていた。

インプラントを6本植立し、最終補綴物を装着した。長年の悩みが解消し、快適な日々を送っている。

歯周病の克服

山口県　濱本　章子（主婦・46歳）

私は現在、開咬の矯正と歯周病の治療を終え、年に二回リコールのために通院しています。入れ歯を覚悟した程の歯を、何でもめる歯にしてもらった丸橋全人歯科の先生方、スタッフの皆様に感謝の気持ちを述べると共に、今から治療に踏み切ろうとしている方々の少しでも力になれればと思い、筆をとりました。

子ども三人がまだ幼かった十数年前、奥歯が揺れるのに気づき、軽い気持ちで近所の歯科を訪ねたところ「骨が全体に溶けていて、ブリッジをかけることも不可能です。」と言われ、ショックでした。学生のころから、よく歯茎から出血してましたが、歯周病など思いもしませんでした。それからというもの、良いといわれている歯科を回りました。その結果、最高の歯です。」と言われ、金の被せ物がはいりました。値段は最高でしたが技術は最低でした。もうここには通院できないと途方に暮れる時、丸橋先生の本に出会ったのです。

矯正治療開始時。オープンバイトは負担の大きい臼歯部も、咬み合わない前歯も歯周病になりやすい。

治療完了後。上顎左右第一小臼歯と下顎左右第二小臼歯を抜歯してオープンバイトを矯正治療。矯正治療の予後は安定し、歯周病もよく改善している。

何度も本を読み返し、食生活の大切さ、正しい歯磨きの仕方などを知りました。白米を玄米に変え、無農薬の小松菜ジュースを飲んだりと、私にできることを試みました。群馬に行くしかないと確信した私を快く送り出してくれたのは主人でした。本当に感謝しています。

平成十年十一月、飛行機と新幹線を乗りつぎ高崎にたどり着きました。この日から毎月一回、山口と群馬の日帰り旅行がはじまったのです。歯周病を治すには咬み合わせが大切で、矯正治療をする必要があるとのことでした。四本の歯を抜歯する時も、少しも怖くありませんでした。丸橋先生、裕子先生を信じていましたから。信頼できる先生がいることが、こんなにも心穏やかになれるものだということを実感しました。毎回、必死の思い通院する私に裕子先生はいつも優しい言葉をかけて下さいました。本当にありがとうございました。

一概に歯科といっても知識や技術の差があります。丸橋全人歯科に通院されている方々は身をもって感じていらっしゃるのではないでしょうか。歯周病が口の中だけの病気ではなく、体全体の病気だと教えて下さった丸橋全人歯科に通院できたことは本当に幸せでした。現在近所の歯科で、五年間も続いている娘の矯正治療に不安を感じ改めて丸橋全人歯科の偉大さに感心しています。

歯科医の技術力の向上と丸橋全人歯科の様な医院が一ヶ所でも多くできることを願わずにはいられません。先生方と皆様の御健康と御活躍を心からお祈り申し上げます。

抜け落ちた歯

群馬県　K・N（元研究室秘書・59歳）

数十年前の五月のことであった。夜来の雨に外犬の様子を見に行った私は、玄関のアプローチで足を滑ったのを覚えている程ふっけてしまった。顔を嫌という程ぶつけてしまった。「あっ」と思った瞬間、口の中に何か違和感を覚えは、恐る恐る手中を見てみるとそれは、「抜け落ちた歯」であった。

そのまま放置していけないと思い、かつて某女子大の研究室で秘書をしていた頃、「愛之協」の本で読んだ丸橋全人歯科のことを思い出し、事情を伝えおじゃました。

まずは院長先生のカウンセリングから始まり、スタッフによる今後の治療に関する丁寧かつ詳しい説明を受け通院が始まった。主治医である辻本先生を中心に、インプラントの治療が始まり私の顔は腫れたり引っ込んだりと色々な症状をみせた。だが、人間の持つ治癒力はすごいものである。こんなに腫れて大丈夫かなと心配していると、三日も経つと元に戻るのだ。なんだ大丈夫なのだと繰り返すうちに自分の治癒力に自信が持てる様になった。

私は痛みに弱くその上嘔吐反射も強く何度もくじけそうになったが、院内での一質問しやすい雰囲気や、不安を打ち消す声かけ「暖かい励まし」等細かい配慮を受け、どんなに勇気づけられた事であったろうか。

丸橋全人歯科における主治医制度はこれまた優れている。主治医を中心に各分野のエキスパートが一丸となって患者の為に治療を進めていくのだ。私は同時に矯正治療も受けた。こうした治療が進むにつれ私の心は次第に不安から安心へ、と移行していった。

やがて受診前は大きな口をあけたことのなかった私は、いつのまにか大きな口をあけて笑っていた。そして健康になりたいという意識が強く芽生え始めた。不規則な生事をかまけて治療を先送りしてきたが、何をおいても最優先すべきだったと今は思っている。なぜなら、治療後の快適な生活は想像以上である。外観からわかる審美的な効果のみならず、身体全体のバランスが良くなった。治療に役立つのではないかと、同時期に始めたヨガによる腹式呼吸も功を奏した。一本足で立った時のポーズはまさにバランスの賜物だ。特に上の前歯はまったく違和感がなく快適そのものである。

21世紀のインプラント技術の進歩で「抜け落ちた歯」が「しっかりした歯」に生まれ変わる事が可能になり、ずぼらだった過去の時間が取り戻せた様な気がする。そしてきっかけは何であれ私の様に「抜け落ちた歯」でも、主治医を信頼しあきらめずに治療する事により、素晴らしい未来が待っている事を、現在歯科治療で悩んでいる方々に伝えたい。辻本先生を中心としたスタッフの皆様に感謝しこれからも努力したい。

笑いと健康

山梨県　N・J（主婦・45歳）

丸橋全人歯科の治療と、甲田光雄先生の「西式健康法」を実践したところ、一年で全身症状がなくなり健康な心体をとりもどすことができました。一つの病を通じて人格も生まれる姿勢も一八〇度変化した私です。人間はその気になればいつでもスタートラインに立てるよう、我慢しません。

私は現在、顎偏位症の患者であったことさえ忘れ超多忙な毎日を過ごしています。朝は自然に五時に起きて目覚めます。一日中疲れ知らずで働けます。どんな困難なことにぶつかっても動ろく前向きに立ち向かえる精神力や防衛本能が働くようになりました。毎日の食事の内容も量も自分でコンディションを考えて摂取できるようになりました。夜は「今日も一日ありがとうございました」と感謝の気持ちを口にしてからゆっくりと眠ります。

そんな当たり前のことができるようになった時「完治しました」と亀井先生がおっしゃって下さいました。普通きることが一番大切なことなのだと学びました。

咬み合わせの治療をする前の姿勢。腰を前に出し肩が後ろに倒れている。

頭、肩、腰、足が無理のない重心線上に整った治療後の姿勢。こめかみの痛み股関節の症状もなくなり、仕事をしても疲れにくくなった。

顎偏位症を予防する 矯正治療の役割

丸橋全人歯科　矯正担当医　丸橋　裕子

現代の日本人、特に若い人に下顎が偏位（ズレ）をおこしたために頭痛や肩こり、腰痛、その他様々な症状を抱えて来院なさる方がとても増えています。そのような患者さんの改善のため、咬合治療や補綴治療と力を合わせて矯正治療も努力しています。

なぜこの様なことが若い人に多発してきているかは院長の著書「退化する若者たち」に詳しく述べられています。その危機的状況に対する警鐘に是非耳を傾けていただきたいと思います。

元々の原因は「人類が咬まなくなった」ことに源を発しています。

狩人に比べホモ・サピエンス（現代人）は脳頭蓋が著しく拡大し、逆に顔面頭蓋が著しく退縮して歯もいさくなり数も先天性欠如が増えています。補まったり採集した食物をそのままよく咬みすりつぶして消化していたところから、脳の発達により煮たり焼いたりして料理し、口に入れる前に咀嚼済みの状態にすることを覚えてきました。働く必要がなくなってきた顎骨や歯が退化の道を辿っているのです。しかしこれは約250万年という長い長い年月をかけておこってきたことです。

ところが戦後の日本では食生活が激変し、若い人の形態的な退化が驚く程の速さで進んでいるため、体がその変化に適応していくことが出来ずに様々な障害として顕在化しているのでしょう。食事の大部分を咬む必要もないように加工、調理された食品が店頭、ほとんど咬むこともなくペットボトルの飲み物で流し込んでしまう若い人が多くなっています。

咬む力のかからなくなった顎はしっかりと発育の仕様もなくだらしなく開き、筋肉も顎関節も脆弱です。細い顎に並びきれない歯はでこぼこと乱れ、不正咬合が原因となって正しい顎位でもみにくくなります。昔の人にはスパッとすり合わせた咬耗が見られましたが、若い人にはあまり見られなくなりました。不自然に当たって咬みにくいところを自分の咬む力ですり減らして調整していた働きがなくなり、鍛えられていない弱い歯槽骨が当たる歯を支えられずに吸収されて歯周病になります。さらに進んで、顎関節が歯が当たる状態に耐えられず、歯周病になる間もなく上顎が逃げて偏位をおこす状態になっているのです。

子供たちの食事についてよく考え、咬むことの大切さを自覚させ実行できるように国全体で取り組むことが急務です。

さて、矯正治療はその現状を踏まえながら子供たちを顎偏位症にならないよう咬み合わせを正してやらなければなりません。顎偏位の萌芽はかなさい頃からあるのです。

①乳歯の反対咬合―歯ぎしりをして上下前歯が接する切端咬合になることが出来ないので、前歯の咬合調整をしながら早期に改善する必要があります。（写真1）

②臼歯部の片側的な反対咬合―このまま放置すると下顎が右へ右へと偏位しながら発育してしまいます。（写真2）

③下顎の後退―下顎は後方へ偏位します。下顎が前方へ出ることを邪魔している不正咬合を早期に改善し正しい下顎の位置へ誘導します。

④乳歯の萌え代わりの管理

⑤親知らず（第三大臼歯）の抜歯―思春期にはいって埋伏している下顎の親知らずが活動を始めると、手前の第二大臼歯を押して舌側へ傾斜させたり、遠心を持ちたげて下顎が後方に回転する思春期性のオープンバイトを引き起こします。このオープンバイトも早期に治療する必要があります。

⑥第二大臼歯のずれ違い咬合の改善―これは顎偏位のとても大きな原因となります。出来れはずれ違いになってしまわないうちの改善が簡単で有効です。

【写真1】乳歯の反対咬合の例。

【写真2】臼歯部の片側的な反対咬合の例。右側が反対に咬んでいる。

咬合治療で改善する免疫力

丸橋全人歯科　咬合治療担当医　亀井　琢正

この自律神経は基本的に無意識のうちに働き、我々の体を守っているのです。

＊咬み合わせで改善する顆粒球とリンパ球＊

我々は実際に咬み合わせと自律神経の関係を調べるため、自律神経によりコントロールされる血液の中のリンパ球と顆粒球に着目しました。これは世界的な免疫学者でもある新潟大教授の安保徹先生が発見した非常に面白い現象です。たとえば緊張状態が続けばそのストレスにより交感神経が優位に働きその結果、顆粒球が多くリンパ球が少なくなります。

咬合治療を必要とする患者さんの多くは血液の白血球成分のうち免疫を司るリンパ球と顆粒球のバランスが悪化しているケースをよく見かけます。実際の顆粒球は約60％、リンパ球は約35％程度が理想の白血球像ですが、咬合治療前の多くの方は咬み合わせの持続的なストレスによる影響でこのバランスが崩れていることが考えられます。その結果自律神経失調症のような症状を訴える動悸や体の冷えがなぜをひきやすいなどの体調不良を訴えるものと思われます。そこで当院での咬合治療で咬み合わせを改善と、顆粒球とリンパ球の比率の変化を見てみました。すると治療前に比べその比率が改善し理想値の顆粒球約60％、リンパ球約35％近づく傾向がみられ、免疫力が改善してくることが確認できました。これは咬み合わせと自律神経との関係を示すものとして非常に重要な結果と言えます。特に咬み合わせの悪いいは緊張状態を示す顆粒球が過多の状態の人が多く、また男性よりも女性のほうが自律神経のバランスを強く崩している傾向が見られたのです。一方咬合治療をする方に副交感神経支配のリンパ球が増えて多い方もいます。そういう方へ咬み合わせを正しくすることで自律神経のバランスを示す顆粒球とリンパ球のバランスが改善していくのが見られるのです。

咬み合わせの改善で全身のいろいろな症状が改善することがよくあります。しかしその理由として確実に言えることが少ないのが現状です。しかし咬合治療により自律神経のバランスが整い免疫力のある疲れにくい体に変わっていくことがこの結果からも確認でき、今まで具体的には分かりづらかった咬み合わせと症状との関連を示す一つの証拠といえるのです。今後、さらに咬み合わせと全身症状との関連が明らかになればより咬み合わせの大切さが認識されるものと思います。

今回の内容は第25回日本顎咬合学会（2007年6月）東京国際フォーラムにて発表しました。

イスラムの諸話

「良い歯の会」　渡辺　浅乃

このタイトルは、中東諸国を特集したコンサリート・ガイドブックと銘打った本の標題を使わせてもらった。五年前にはじめてシリア、ヨルダンなどのイスラムの国々を訪れたから、すっかりイスラムの何かに魅せられてしまったのだ。

それまでの私の中でのイスラムに対するイメージは、アルカイダやタリバンといったメディアで報道されるものなどから受ける、テロ、危険な国……といった悪いものが多かった。しかし、実際に行ってみると、それらは違っていた。長い歴史を有する誇りに起因するのか、人々の他者に対する優しさ、心のゆとり、奥ゆかしさと、うたものが感じられる。この優しさは、昔の日本人も確かに持っていた。他人に対して良くしてあげるという思いやりの深さは、旅行者にとって格別で有難く心に残るものだ。

今年三月、イランに行くチャンスを得た。首都のテヘラン、バラの町シラーズ、ペルシャ帝国の遺跡ペルセポリス、ゾロアスター教の歴史が生きるヤズド、十七世紀に「世界の半分」と言われたイスファハンを回った。この旅も五年前のシリア、ヨルダンの時と同じように、警戒心を抱いて出かけましたが、変わりなく心地よいものだった。

ツアーの中で現地ガイドのアリさんのご自宅訪問が組まれて、一般家庭の様子を垣間見ることができた。日本の春分の日は、イラン暦でお正月ということで、親戚の人たちが集まっていた。そこに私たちも招かれ、歓迎の歌かれた二畳ほどの居間に通され、お茶をいただいた。自宅に帰ったアリさんの様子は、仕事の時に見せていた顔と違い、暖かい家庭の空気に心引らいでいるようだった。

台所の様子も見せていただいたが、冷蔵庫の中には食材がたくさんストックされていて、食生活は家庭で作る基本は失われていないようだ。家族を大切にしているイラン人の様子が伝わってきた。

魅せられた何かとは、人々の温かい心にあったのだった。

是非、中東の国々への旅をおすすめします。遺跡の素晴らしさは勿論、人の心の豊かさにきっと魅せられることでしょう。

日本の春分の日はイラン暦のお正月にあたる。ピクニックに来ていた家族からトリ肉のケバブをいただいた。大変おいしい。

イスファハンのイマーム広場にあるモスク。ペルシャンブルーのモザイクが見事。

「良い歯の会」東京特別講演と健康展

七五〇人の大盛況

二〇〇六年十一月二十六日、恒例となった東京特別講演と健康展が、学士会館において開催された。関心は年ごとに高まり、今回の参加者は七五〇人を超え、会場は終日、参加者でごった返していた。

開催時間の午前十時を待たずに、参加者の皆さんに入場していただくほど、盛会を予感させる始まりでした。途切れることなく続いた来場者は七五〇人を超え、大盛会となりました。年ごとに高まる参加者の意識や要望に直接触れることができ、私たち主催者側にとっても大変有意義な会となりました。

定例の「良い歯の会」は毎月第二土曜日に行われていますが、諸事情で日程が合わず参加できない人からの要望も多く、参加しやすい東京での開催に至ったわけです。東京、埼玉、千葉、神奈川などの首都圏を中心に、遠くは青森、福島、愛知、大阪、山口などの各県からもご参加いただきました。

特別講演会は三題行われ、いずれの講演も満席で立ち見が出るほど盛況でした。会場が狭い、補助椅子を用意して欲しいなどの要望が多く聞かれ反省材料となりました。講演三題の内容は次のとおりです。

1．丸橋　賢講師による
「これを知らないで歯の治療を受けないで…」
—全人歯科治療の実際—

2．亀井琢正講師による
「咬んでつくるほんとうの健康」

3．辻本仁志講師による
「インプラントでみなぎる力、丈夫な体」

当院の三人のドクターによる講演は、全国的に類を見ない全人的視点に立った歯科治療の実際が、わかりやすく話され、さらに最近希望者も多く話題に取り上げられることの多い、咬み合わせとインプラントの治療について、更に詳しいお話がされ、大変好評を得ました。

講演会と同時に「健康展」も開催されました。無料歯科相談コーナーでは当院のドクター十人が、インプラント、矯正、歯周病、咬み合わせなどの様々な相談に応じましたが、歯で悩んでいる人の多さに改めて考えさせられるものでした。

講演会は満席で立ち見も出るほどの混雑ぶりだった。

健康展会場も終日どのコーナーも順番待ちの状態が続いた。

健康展会場では他に、無料健康測定コーナー（骨密度測定、咬合力測定、口臭測定、口腔内細菌観測など）や、食生活指導コーナー、咬み合わせの補正体験ができるバイト・トライ、普段はなかなか見られない丸橋全人歯科の精密な技工物（クラウンや義歯など）の展示と技工士による説明、そして、ムシバ、歯周病、矯正、インプラント、咬合などの丸橋全人歯科の治療についてのパネル展示とスタッフによる説明といった企画が執り行われました。四十人余りのスタッフが運営や対応にあたりましたが、どこも長蛇の列でご希望に応じきれない状態となったのです。

参加者からは様々なご意見や励ましの声をいただき、次回も是非開催してほしいという多くの要望があり、そこで二〇〇七年度も九月三十日(日)に左記案内にて開催いたしますので、お誘い合わせの上、ご参加下さい。講演会は四題を予定しており、更に充実した企画となるでしょう。

無料歯科相談コーナーでは当院のドクター10人が応じた。

2007年『東京特別講演と健康展』ご案内

▶日時　2007年9月30日(日)　午前9：50～午後4：30　**入場無料**
▶場所　学士会館　（東京メトロ神保町駅徒歩1分）
▶講演
特別講演「生きる力を高める全人歯科医療」（丸橋　賢）
講演1．「家族で創るほんとうの咬み合わせ」（亀井琢正）
講演2．「顎のズレを考慮に入れた矯正治療」（丸橋裕子）
講演3．「インプラントで回復する心と体」（辻本仁志）
▶健康展（同時開催）
○無料歯科相談　○食事指導と相談
○歯科治療に関するパネル展示　○無料健康測定

良い歯の会にご参加ください

〈ご　案　内〉

■日　時　毎月第2土曜日　午後1時30分～5時
■場　所　丸橋全人歯科3階研修室
■内　容　4回連続参加で1シリーズ

	内　容	開催月		
①	環境と人間の生き方を考える	1月	5月	9月
②	ムシバ予防を中心に家族を考える	2月	6月	10月
③	歯周病と生活習慣病を克服しよう	3月	7月	11月
④	退化病と闘う	4月	8月	12月

■定　員　60人（入場無料）
ご家族、お友達などお誘い合わせのうえ、ご参加ください。どなたでも参加できます。お電話でご予約ください。☎027-323-9524
その他、試食会（本物食品と市販食品の食べ比べやおすすめメニュー紹介など）も行っています。
※毎月第2土曜日開催が原則ですが、祝日・夏期休暇などと重なる場合は第1か第3土曜日に変更となります。詳しくはお問い合わせください。
※各グループなどで、講演のご希望があればご連絡ください。

どうして何度も参加するのか
－真の「全人」を目指して－

池田久美子（横浜市・学園職員・46歳）

「良い歯の会」の大ファンとなったのは初めて参加した際、丸橋先生の有意義なお話とお土産付きの美味しい試食会、そしてスタッフの皆さんのチームワークの良さに感動したのがきっかけです。先生が単にお話上手な方であれば1シリーズの参加で十分でしょうが「人間も自然の一部です」「お母さんの頭の中身がそのままお子さんの歯の状態として現れます」「自分の目で見て頭で考えて…自分らしく生きましょう」など内容が常にわかりやすく本質を見抜いていらして、その都度学ぶべきものがありますから、理解をいっそう深めたいと思い今日に至りました。

また、試食会ではあまりの違いに絶句してしまう本物食品と市販食品の食べ比べや具だくさんみそ汁、お砂糖を使わない煮物などおすすめメニュー紹介もあり、ややもすれば安易な方向へ流されてしまう食についてじっくりと考える機会を得られました。

真の「全人」を目指して現在26回参加しましたが、今後も参加回数を重ねていきます。皆様も是非ご参加下さい。

良い歯の会　特別賞を受賞

地域に根ざした食育コンクール2006において、「良い歯の会」が特別賞・審査委員会奨励賞を受賞した。食育基本法（二〇〇五年成立）を普及することを目的とし、地域に根ざした食育推進協議会が主催し、農林水産省が提唱するコンクールである。

二十六年目を迎え、この間一回も休まずに地域における地道な活動が認められた結果だと思う。「良い歯の会」は、毎月第二土曜日に開催されている定例のものと、外部からの依頼で出張して行うものを合わせると、通算七〇〇回以上、参加者延べ人数は五万六千人を超えている。

表彰式は、二〇〇七年一月二十六日、有楽町朝日ホールにおいて、全国各地から受賞者が集まり開催された（写真）。食生活改善分野での今回の受賞は、「良い歯の会」で啓蒙内容の中心においている事柄であり、この評価を大変有意義なことと受け止めている。これを一つのステップとし、更に高みを目指していきたい。

有楽町朝日ホールで行われた表彰式。

お便り紹介

▼母の付き添いで初めて丸橋歯科に行った時、私が顎の問題を抱えていることを知った丸橋先生は、土曜日で混雑しているのに、「遠方から来たのだから診ましょう」と診察して下さいました。

その後、開口時の顎の音はなくなり、二年間で治療を終えました。色々な医院に行きましたが、「治らない、これ位ならたいしたことはない」と言われ、諦めていたので本当にうれしく思います。

また、「良い歯の会」での多方面にわたるお話は、参加する度に身が引き締まります。食事はできるだけ無添加や有機栽培のものを選ぶようになりました。母は、洗濯、台所用、シャンプー等の洗剤をすべて人と環境に配慮したものに変えました。自国の伝統文化を知らない私は、先生のお話をきっかけに、茶道のお稽古に通い始めました。これは私にとって大きな変化になりました。

そして最近、さらに先生に感謝したい事がありました。それは私の骨密度です。二十二歳の時は基準を超えていたので安心していました。二十九歳の時、測ってみると五十歳代の骨密度になっていました。ストレスで胃をこわし、数年間、食事の量が減り、偏った食生活になったせいだと反省しました。それから一年間、食事と運動を意識し、今回（二〇〇六年）に測定したら平均値より高くなっていました。検査する機会を設けてもらえたので発見できましたが、気づかずに過ごしていたらと思うとぞっとします。

私は丸橋歯科でたくさんの事を学びました。楽な方に流れないように、意志をしっかり持ち、自分のものにしていきたいと思います。

（千葉県・女性）

▼驚きました。ここ二ヶ月程、肩の張りがあり、気がつくと手が肩に……という状態でした。

咬み合わせの調整後、先生が、「どうですか。軽くなったでしょう」とおっしゃった時、（そんなにすぐに結果が出るの）と半信半疑の私でした。でも本当に楽になって感激!!ありがとうございました。

（千葉県・女性）

▼丸橋先生はじめ、スタッフの皆様には大変お世話になっております。お陰様で体調も改善されております。特に目と頭が冴える感覚が一番の改善点ですが、経過についてお知らせ致します。

○目　視界がはっきり広く見える。仕事の時、以前は一二〇度位が注意の限界だったが、スプリントを付けてから一八〇度意識できるようになった。

○頭がすっきりしてきた
こめかみあたりから上の伝達が良くなったように感じ、一本の線でつながったような感覚。頭も冴え考えがまとまりやすくなった。

○おなか　消化する時のおなかの音が、以前は中心からはずれたところで鳴っていたが、今はおなかの中心で鳴っている。

○手足　足の指を動かしたりすることが、以前よりし易く楽になった。足にあったかさぶたも、スプリント治療をしてからすぐに良くなりはがれおちた。

○歩くのがとても楽
スプリントを入れていただき、高崎駅まで歩くと、とても楽で、まっすぐ立っているという感覚で大変驚いた。全体的に体に力が入りやすくなりました。

以上のような改善があり、感謝の気持ちで一杯です。

（群馬県・女性）

編集後記

日本人は虫の音を左脳で聞くために、どんな虫が鳴いているかを聞きわけることができるが、右脳で聞く他の民族には雑音のようにしか聞こえないという研究が80年代一世を風靡した。90年代になり、人間の脳の活動をほぼリアルタイムで画像で確認できるようになってから、日本人だけが左脳で虫の音を聞いていることを証明した画像はない、と現代の脳科学者たちは断言しているという。科学的な証明は確かに素晴らしいが、謎が残されているのもよいのではないか。自然をいとおしむ心、感性など、日本人の特性を失わずに大切にしてゆきたいものだ。

（渡辺浅乃）